

もとおりひよしじんじゃ みこし
本折日吉神社の神輿

種 別	小松市指定文化財 建造物
指定年月日	昭和 50 年 11 月 1 日
所 在 地	本折町

本折日吉神社は、元は古府町にあり、石部山王総社または府南山王明神と呼ばれていたが、寿永 2 年(1183)に本折に遷座し、社号を山王宮と改めた。寛永 17 年(1640)に前田利常が小松城に隠居すると、能美郡の総社と定められ社地が与えられた。

神輿は本折に遷座した頃からあったが、現在の神輿は安永 8 年(1779)に再興されたものである。神殿は 6 面に作られ、6 つの屋根の隅には金銅製の飛燕が、屋上には鳳凰が飾られている。また、金箔や黒漆が施され、多くの彫金具や木彫が神輿全体を装飾している。これらの金具や木彫には、四神や波、雲、花鳥のほか、山王宮に因んだ猿⁽¹⁾がかたどられている。

台座と神殿の間の接合部材の工夫や、蕨手⁽²⁾が動き狭い道も通れるようにするなど、豪華壮麗ではあるが、荒々しい神輿振りにも耐えられるように作られている。

利常在城中にこの本折日吉神社の神輿と、菟橋神社の神輿が春季祭礼の際に小松城に渡御し神事を行うようになった。これが現在の「お旅まつり」につながっている。

(1) 猿：山王信仰において、猿は山王社の使いとされた。

(2) 蕨手：神輿の屋根先につけられた、先端が巻きこんだ形の意匠。

※重量約 25 トン

